

防災スペシャリスト養成研修（有明の丘） 令和2年度 第2期（オンライン研修）

「対策立案」コース

【各講義の内容と学習目標】

受講期間 オンデマンド：R3年2月15日（月）～2月28日（日）

リアルタイム：3月3日（水）13:00～16:30頃

手法	No.	単元名	単元の概要	No.	時間	講師名	学習目標	
オンデマンド	講義	1	対策立案総論	災害対応における対策立案の考え方や情報統括、活動サイクル、体制について学ぶ。	1	64	林 春男 (防災科学技術研究所)	<ul style="list-style-type: none"> 対策立案過程について説明できる。 当面の対応計画について説明できる。 対策立案能力について説明できる。
		2	指揮統制の世界標準 (危機対応に必要な役割(部門)と機能)	世界標準における危機対応組織の仕組みを学び、リーダーに求められる4つの役割を学ぶ。	2	49	秋富 慎司 (医風会)	<ul style="list-style-type: none"> 指揮者の機能と役割について説明できる。 事態対処の役割と機能について説明できる。 対策立案の機能と役割について説明できる。 後方支援の機能と役割について説明できる。 総務の機能と役割について説明できる。
		3	災害対策本部が行う 対策立案プロセス	「当面の対応計画（インシデント・アクション・プラン）」の果たすべき役割と基本的な構造、立案のプロセスについて学ぶ。	3	56	林 春男 (防災科学技術研究所)	<ul style="list-style-type: none"> 計画立案が扱う範囲を説明できる。 当面の対応計画について説明できる。 状況認識の統一について説明できる。 目標による管理について説明できる。 資源管理について説明できる。 当面の対応計画の構造について説明できる。 責任担当期間計画について説明できる。 災害対策本部の進め方について説明できる。
		4	地図による状況認識の統一と ISUTの試み	GISによる統合された情報提供の必要性和ISUTの有効性について学ぶ。	4	66	田口 仁 (防災科学技術研究所) 佐藤 良太 (内閣府)	<ul style="list-style-type: none"> GISの必要性を説明できる。 GISとは何かを説明できる。 事例を説明できる。 GISを活用するためのポイントを説明できる。 統合された情報システムの構築に向けて説明できる。 大規模災害時の国による情報集約支援（ISUT）の仕組みについて説明できる。
		5	応急期の政府支援	発災直後に各省庁から提供される具体的な支援の内容について学ぶ。	5-1	2	林 春男 (防災科学技術研究所)	<ul style="list-style-type: none"> 政府の諸機関の活動方針について説明できる。
					5-2	14	鈴木 健志 (消防庁)	<ul style="list-style-type: none"> 状況に応じて政府の資源を適切に活用する方法について説明できる。
					5-3	9	鈴木 厚志 (警察庁)	<ul style="list-style-type: none"> 災害応急期に実施される緊急消防援助隊の活動について説明できる。
					5-4	10	上野 和人 (防衛省)	<ul style="list-style-type: none"> 災害応急期に実施される警察災害派遣隊の活動について説明できる。
					5-5	12	保坂 和彦 (海上保安庁)	<ul style="list-style-type: none"> 災害応急期に実施される自衛隊の活動について説明できる。
					5-6	14	田中 克直 (国土交通省)	<ul style="list-style-type: none"> 災害応急期に実施されるTEC-FORCEの活動について説明できる。
5-7	14				大城 健一(川崎市立看護短大)	<ul style="list-style-type: none"> 災害応急期に実施されるDMATの活動について説明できる。 災害応急期に実施される内閣府の現地対策本部の活動について説明できる。 		
6	効果的な災害対応計画・ マニュアルの立案演習	災害対応計画の果たすべき役割と基本的な構造、マニュアルの作成について、災害対応の事例を基に演習形式で学ぶ。	6	69	東田 光裕 (防災デザイン研究会) 井ノ口 宗成 (富山大学)	<ul style="list-style-type: none"> 事前の対応計画の考え方について説明できる。 災害対応業務を整理することができる。 災害対応項目を整理することができる。 災害対応とプロジェクトマネジメントについて説明できる。 防災行動計画（タイムライン）について説明できる。 業務の階層化と業務フローの可視化について説明できる。 災害対応マニュアル作成手法を説明できる。 WBS M/ACEを利用できる。 		
7	災害対策本部運営演習	災害発生後の限られた情報の中で状況を推測し、対応方針を検討し、計画を立案し、活動を調整しながら、災害対策本部会議において対策を決定する手法を学ぶ。	7	46	山本 晋吾 (兵庫県立芸術文化センター) 新堀 賢志 (火山防災推進機構)	<ul style="list-style-type: none"> 災害対策本部の運営について説明できる。 		
オンライン	演習	8	災害対策本部運営演習	災害発生後の限られた情報の中で状況を推測し、対応方針を検討し、計画を立案し、活動を調整しながら、災害対策本部会議において対策を決定する手法を学ぶ。	8	山本 晋吾 (兵庫県立芸術文化センター) 新堀 賢志 (火山防災推進機構)		
		9	全体討論	災害対応マネジメントにおける計画立案について学んだことを、災害対策本部運営にどのように反映させるのかを考える。	9	林 春男 (防災科学技術研究所)	<ul style="list-style-type: none"> 研修受講の目的を再認識する。 研修を通じて、学び、得たものを整理する。 研修を活かして次につなげることを認識する。 	